

センター公式 Instagram

地球温暖化防止啓発動画を
公開中！

サステナブルなくらし
～食欲の秋編～

10月の「食品ロス削減月間」に合わせて啓発動画を作成しました!集まって食事をする機会が増えるこれからの季節、引き続き食品ロスがないように食事を楽しみたいですね。



大阪府地球温暖化防止活動推進センター

2023年1月・3月 大阪府民の森 ちはや園地 イベント情報

初登り & 豚汁



冬景色の金剛山を楽しみながら登りましよう。登山の後は温かい昼食でほっこり。

【期間】1月8日(日)
【時間】10:00 ~ 15:00
【集合】金剛登山口バス停
【解散】ちはや園地キャンプ場
【料金】1,000円 **【定員】**20名
【申込】大阪府民の森HPより申し込む。

金剛登山 & アニマルトラッキング

雪の上の足跡、寒い冬でも動物たちは懸命に生きています。どんな足跡を見つけるかな?

【期間】1月15日(日)
【時間】10:00 ~ 15:00 **【集合】**金剛山ロープウェイ前バス停
【料金】500円 **【定員】**20名 **【持ち物】**弁当、タオル、替え靴下、カイロ
【服装】動きやすく、汚れてもよい服装
【申込】大阪府民の森HPより申し込む。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止又は順延する場合があります。



えこっとOSAKAにご意見をお寄せください。

ご意見はこちらから <https://goo.gl/aZVbQn>



えこっとOSAKAを
購読しませんか?



継続して購読されたい方は、1期(年3回発行)送付分の切手、84円3枚を添えて、郵便番号、住所、氏名、電話番号、何号分から送付をご希望の方を記入のうえ、大阪府地球温暖化防止活動推進センターまで郵送にてお送りください。

● あて先 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 大阪府地球温暖化防止活動推進センター
お近くの市町村(環境担当部署)、消費生活センター、図書館、府民情報プラザなどでも配布しております。

大阪府地球温暖化防止活動推進員の取組み



弘田 純 推進員

和泉葛城山などの自然体験活動や自然エネルギーの啓発活動をとおして、参加者に温暖化対策の必要性を伝えています。自然の中での活動はやりがいもあり、私のライフワークと位置付けています。

永和信用金庫様から寄附金をいただきました。



永和信用金庫様では、お客様に地球環境問題を訴え、一人でも多くの方に関心を持ってもらうことを目的に、「えいわエコ定期積金」を募集され、その一部を地球温暖化防止活動に役立てるため、大阪府地球温暖化防止活動推進センターに寄附していただきました。寄附金は、えこっとOSAKAの発行費用やセンターの活動費用の一部に充当します。



マスコットキャラクター
「えこたま」



みどり公社HPに
アクセス!



「えこっと」は地球環境を守るために、私たちの暮らしをちょこっと(少し)だけ、えーこと(良いこと:やさしい)、エコロジカルにしようと、大阪言葉を交えた意味を込めています。

編集・発行／大阪府地球温暖化防止活動推進センター
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 一般財団法人大阪府みどり公社
TEL.06-6266-1271 FAX.06-6266-8665 <http://osaka-midori.jp/>
編集協力／印刷・株式会社ワイルハーツ
〒564-0053 大阪府吹田市江の木町1丁1 コンバーノビル2F
TEL.06-6378-9500 FAX.06-6378-9550 <http://www.w-hearts.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

カーボンフットプリントで、
環境にやさしいお買い物

商品やサービスのCO₂見える化する取組みが拡がっています

大阪版カーボンフットプリントの店舗における試行実施

今年の11月に大阪市内の店舗で、大阪産の農作物のカーボンフットプリントについて試行実施を行いました。

今後、より多くの店舗に取組みが拡がる事を目指していますので、お近くのお店で見られた際にはぜひお手にとってみてください。



店舗における試行の様子



試行で用いたラベル

コラム CO₂見える化の拡がり

CO₂見える化の取組みが様々な所で拡がっています。例えば、脱炭素社会の実現をめざすプラットフォーム「Earth hacks(アースハックス)」は、今年7月に「デカボスコア」(右図)を発表しました。これは、従来の商品やサービスと比べてCO₂排出量の削減率を見える化していて、大阪版カーボンフットプリントとも似た考え方です。



このように様々な商品やサービスでCO₂の見える化が拡がり始めていて、私たちも普段の買い物を通して環境にやさしい行動をとることができます。脱炭素社会の実現に向けて、今日から取組みを始めてみませんか!

えこっとOSAKAは、
カーボンオフセット付の環境に
やさしい情報紙です

本紙は1部あたり10.2gのCO₂(ライフサイクル)を排出しますが、これを大阪府域において実施された森林吸収(間伐促進型プロジェクト)で創出されたクレジットでオフセットしています。

3. 大阪エコ農産物などの農薬や化学肥料が少ないもの

農薬や化学肥料を製造する際にCO₂が発生するため農薬などの使用が少ない作物を選ぶとCO₂の排出減につながります。



30年越しの交渉が実り 「損失と損害」に対処する基金設立に合意

認定NPO法人 地球環境市民会議(CASA) 土田 道代 氏

COP27が開催、前回からの進展は

国連気候変動枠組条約の会議COP27は、2022年11月6日からエジプト、シャルム・エル・シェイクで開催され、「シャルム・エル・シェイク実施計画」を採択して11月20日に閉幕しました。2日間の延長の末、「損失と損害」で歴史的な合意があった一方、2030年目標の強化、化石燃料の削減、1.5℃目標など、緩和についてはCOP26からの前進が乏しい会議となりました。

「損失と損害」発展途上国に対する補償

「損失と損害」は気候変動による悪影響を指し、30年前から小さな島国や後発開発途上国、アフリカ諸国が重視してきたもので、粘り強い交渉の結果、パリ協定では、8条「損失と損害」と独立した条項になりました。COP27議長国、エジプトがあるアフリカは、温室効果ガス排出量は相対的に少ないにもかかわらず、気候変動による悪影響をより深刻に受ける地域です。

たとえば、「アフリカの角」(エチオピア、ソマリア、ケニア、ジブチ、エリトリア)では、2020年10月から3期連続の干ばつが発生し、人々の命が脅かされ続けています。そうした背景からCOP27では「損失と損害に関する資金」が初めてCOPの公式議題になりました。

「損失と損害」の議論が「責任」と「補償」につながることを強く懸念して、「損失と損害に関する資金」について極めて消極的な姿勢を維持してきた先進国と、具体的な救済措置を資金面でも得たいと強く希望する途上国との間で交渉は難航しましたが、最終的には、COP27で「損失と損害に対処する基金」の設立と「移行委員会」の設置が決まりました。詳細はこれからですが、歴史的な進展となりました。

今後の1.5℃目標への各国の取組み

パリ協定では、5年毎にNDC(国別の貢献)を提出すること、そこでその時その国にとって最も野心が高い目標を提出することが義務とされ、さらに2023年から5年毎に全体の進捗確認(グローバルストックテイク)が行われます。しかし、1.5℃目標の実現のためには、現在提出されている2030年目標の大幅強化が必要なことが明らかで、パリ協定

のNDC提出およびグローバルストックテイクのサイクルとは別に、2030年目標の強化に焦点を当てる目的でCOP26で設置されたのが「緩和の作業計画」です。

COP27では、緩和分野で、実質的に2030年目標の強化につながる合意が期待されましたが、決定では、この作業計画の成果によって「新たな目標や目的を課さない」とされ、作業計画の成果が限定されることになりました。

COP26ではすべての国に対し、2030年目標を再検討し強化して再提出するよう要請されましたが、COP27ではまだそうしていない国に対してのみ、2023年までに2030年目標の再提出を呼びかける内容となりました。

化石燃料削減については、インドが「すべての化石燃料の段階的廃止」を提案し、EU、アメリカをはじめ80カ国以上の国がそれに賛同しましたが、サウジアラビアやイラン、ロシアが反対し、決定には至りませんでした。

2030年目標の引き上げはCOP28へ持ち越しとなり、依然1.5℃目標の達成が危ういままです。

日本の気候変動問題へのこれからの姿勢

COP27では首脳級会合に岸田首相の姿はなく、世界的な環境NGOネットワークCANから化石賞を贈られました。

日本は2023年のG7議長国です。世界第5位の大排出国として、日本が気候変動問題でリーダーシップを發揮することが期待されます。



2022年11月9日、COP27で最初の「化石賞」は日本が受賞。「化石賞」は、CANが、その日の交渉で最も後ろ向きな国に贈る不名誉な賞で、CANは「日本が公的資金を化石燃料事業へ拠出している世界最大の国で、その金額は、2019年から2021年までの3年間の年平均で106億ドルに上った」と理由を説明(写真=CASA提供)。

